

シンポジウム

学校資料の 活用を考えるII

—学校資料の価値と可能性—



日本の小学校は、明治初期以来140年以上にわたり、この国と地域社会をかたちづけてきました。戦後には教育機会が拡大され、高度経済成長期にはほとんどの国民が中学校を卒業するようになりました。ゆえに、日本の歴史や地域の歴史、学校の歴史などをふりかえるとき、学校のあゆみを今に伝える学校資料(学校に関するあらゆる資料)は絶対に必要です。

このようなかけがえのない学校資料は、近年加速化する学校統廃合などによって日々散逸・廃棄が進んでおり、学校資料の収集・保存は急務です。個人所蔵の通知表や日記、児童作品なども、受け入れ先がなければ廃棄されます。

ただし、学校資料の収集・保存を進展させるためには、学校資料の価値が広く社会的に認識される必要があります。そうすることで、これまで「役に立たない」と廃棄されてきたような学校資料でも、「いつか役に立つかも」と見られるようになり、学校資料の収集・保存が進展するからです。また、学校資料に新たな活用の可能性を見出すことも必要です。そこで当クラスターでは、昨年度、「学校資料の活用を考える—学校資料の価値と可能性—」と題してシンポジウムを開催しました。今回はその続編です。

今回のシンポジウムも、「資料に価値と可能性を見出そうとする眼差し」を重視します。一人でも多くの学芸員・アーキビスト・研究者、行政職員、学校の教職員、卒業生、PTA関係者、学区住民、そして児童・生徒とその保護者に学校資料の価値を伝えるにはどうすればよいのか、学校資料にはどのような可能性が眠っているのかを考え、議論します。

今回のシンポジウムでは新たな報告者として、アーキビスト、陶芸の学芸員、民俗学の学芸員を加え、各々が報告した上で幅広く議論を行い、学校資料の価値と可能性について考えます。

シンポジウム提案者

和崎光太郎(京都市学校歴史博物館顧問/浜松学院大学短期大学部)

2020 1.11(土)
13:00-16:30(開場12:30)

場所 京都市学校歴史博物館 2階講堂

定員 100名(事前申込み先着順)
詳しくは裏面をご覧ください。

対象 中学生以上

主催 京都歴史文化施設クラスター実行委員会
京都市学校歴史博物館

聴講料無料(別途入館料¥200が必要)

- 合わせて常設展・特別展も当日ご覧いただけます
- ※各種割引あり
- ※障害者手帳等を提示の方無料(介助者1名を含む)
- ※市内の中学生は無料
- ※手話通訳あり(12/22までに要予約)

京都市学校歴史博物館

〒600-8044 京都市下京区御幸町通仏光寺下る橋町437
TEL.075-344-1305 <http://kyo-gakurehaku.jp>

プログラム

- 13:00 開会あいさつ
- 13:05 村野正景(京都府京都文化博物館)
「学校所在資料の価値体系とその活用—京都の事例—」
- 13:35 羽毛田智幸(横浜市歴史博物館)
「学習指導要領の改訂と学校内歴史資料室」
- 14:05 花井久穂(東京国立近代美術館工芸館)
「「お蔵入り」所蔵作品をいかに救い出すか
—美術館の展示と学校資料の活用」
- 14:35 休憩
- 14:45 和崎光太郎
(浜松学院大学短期大学部, 京都市学校歴史博物館顧問)
「教育史系博物館の現状と課題」
- 15:15 嶋田典人(香川県立文書館)
「公文書管理・公文書館と
基礎自治体出張所・学校アーカイブズ」
- 15:45 質疑・応答
- 16:15 閉会あいさつ
- 17:00 閉館

お申込み方法

必要事項をご確認の上、下記の方法でお申込みください。
定員になり次第、申込を終了させていただきます。

- 必要事項** ①シンポジウム申込 ②氏名(ふりがな)
③参加人数 ④連絡先電話番号 ⑤FAX番号



075-344-1305

①～④をお伝えください

開館:9時～17時 休館:水曜及び12/28～1/4



075-344-1327

①～⑤を明記のうえ、FAXを送信してください



rekihaku-jigyoku@edu.city.kyoto.jp

①～④を明記のうえ、送信ください

京都市学校歴史博物館からのお知らせ

京都市学校歴史博物館 特別展示室

国宝・旧開智学校校舎の学校資料

2019年12月15日(日)～2020年1月27日(月)

[時間] 9:00～17:00(16:30最終入館)

[休館日] 毎週水曜日(祝日の場合は翌平日)、12/28～1/4

長野県松本市には明治に建てられた貴重な校舎、旧開智学校があります。令和元(2019)年に国宝に指定されました。本展は、国宝・旧開智学校校舎の学校資料が京都市学校歴史博物館にやってくる、またとない機会です。

この特別展では、誰もが目を奪われる校舎の美しさなど、旧開智学校の魅力を存分に紹介します。また旧開智学校の所蔵資料は「日本一の教育実践資料」と評されています。本特別展では、こうした学校資料のもつおもしろさ、さらには奥深さについても紹介していきます。



京都市立開智小学校との交歓
児童作品 昭和36(1961)年

関連イベント

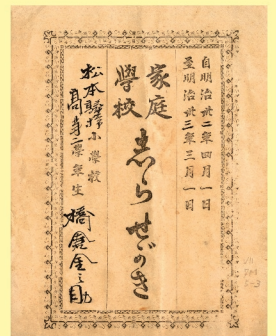
講演会

「教育実践資料の保存と活用
—旧開智学校の事例から」

[講師] 遠藤正教(旧開智学校校舎学芸員)

[場所] 京都市学校歴史博物館
3F講義室(予定)

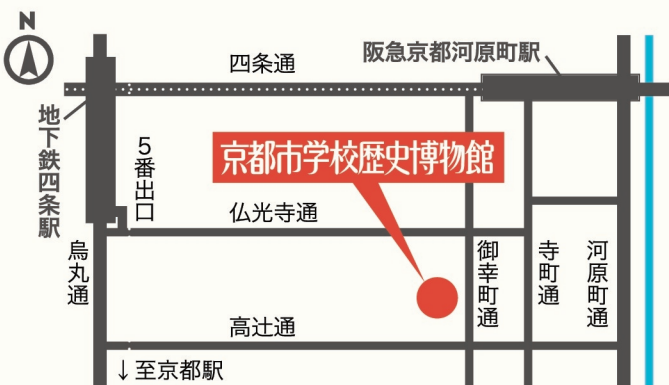
[日時] 2019年12月15日(日)
14:00～15:30



家庭学校志らせがき
明治32(1899)年度



国宝・旧開智学校校舎 撮影/山田 毅



京都市学校歴史博物館

〒600-8044 京都市下京区御幸町通仏光寺下る橋町437
TEL:075-344-1305 <http://kyo-gakurehaku.jp>

- ◆阪急「京都河原町」下車 徒歩約10分 10番出口より南西へ
 - ◆地下鉄烏丸線「四条」下車 徒歩約12分 5番出口より東へ
 - ◆京阪「祇園四条」下車 徒歩約15分 3番出口より南西へ
 - ◆市バス「四条河原町」下車 徒歩約10分 南西へ
 - ◆市バス「河原町松原」下車 徒歩約5分 北西へ
- ※駐車場はございません。※正面入口、御幸町通からお入りください。

この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ!

